

畜大だより

OBIHIRO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND VETERINARY MEDICINE

2026. 4. 1



(撮影：畜産科学課程 4年 今中 木香)

目次

新入生諸君へ 課程・別科紹介

学 長	長 澤 秀 行	1
共同獣医学課程	教 授 佐々木 基 樹	2
畜 産 科 学 課 程	教 授 耕 野 拓 一	3
別 科	准教授 秋 本 正 博	4

在 来 生 所 感

共同獣医学課程	2 年 浦 澤 慧太朗	5
畜 産 科 学 課 程	2 年 二 口 桜 耶	5
畜 産 科 学 課 程	2 年 木 曾 あおい	6
別 科	2 年 川 副 誠 志	6

学生支援課から

学位記並びに修了証授与式の開催	7
飲酒に関する注意	8
交通事故防止について	8
SNSの利用にあたって	9
消費者トラブルに巻き込まれないために	9



国立大学法人北海道国立大学機構

帯広畜産大学



「入学おめでとう」

学 長
長 澤 秀 行

全国から本学を目指して入学された大学1年生、いわゆる「フレッシュマン」の皆さん、入学おめでとうございます。

「フレッシュ」は、飲料や加工食品の場合は添加物や保存料を使わず、新鮮な素材という意味ですが、人の場合は「若々しい」「エネルギーが豊富」「新鮮で活力あふれる」という意味になります。

皆さんの多くは生まれ育った土地を離れ、今ここに、進む道と同じくした仲間たちと共にいます。本学新入生の約7割は北海道以外からここ十勝帯広に来了います。皆さんの生まれ育った土地の風景と比較して、本学が位置する十勝帯広の自然環境の印象はいかがでしょうか。地元出身の皆さんには見慣れた風景ですが、ロケ地として年間60件を超えることが、十勝の自然の素晴らしさを証明しています。

本学の西には、最も新しく承認された国内最大の国立公園「日高山脈襟裳十勝国立公園」があります。北には、北海道の最高峰である旭岳、活火山の十勝岳を含む「大雪山国立公園」があり、北東には原始的な姿を有し、マリモで有名は阿寒湖、日本一透明度の高い神秘の湖の摩周湖がある「阿寒摩周国立公園」があります。東には日本最大の湿原と壮大な蛇行河川を有する「釧路湿原国立公園」があり、多様な生態系に触れることができます。周辺に4つの国立公園を持つ十勝帯広は、関東平野、石狩平野に次いで3番目に広い十勝平野の中心に位置し、十勝岳を源とする十勝川は自然豊かな河川環境を形成しています。三方を山脈に囲まれている十勝の晴天率は日本トップレベルで、一日の寒暖差が大きく、地平線を望むことのできる雄大な自然環境は、十勝の基幹産業である畜産、酪農、畑作にも大きく寄与すると同時に、本学の教育研究を進める上で、大きな強

みとなっています。

日本の食料生産の中心地として、「生産から消費まで」一貫した環境が揃う十勝に位置する本学は、生命、食料、環境をテーマに、農学、畜産科学、獣医学に関する教育研究を推進する、我が国唯一の国立単科大学です。本学のミッションは、「知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、『食を支え、暮らしを守る』人材の育成を通じて、地域及び国際社会に貢献すること。」です。2022年に発足した国立大学法人北海道国立大学機構は、帯広畜産大学、小樽商科大学、北見工業大学の3大学を経営統合し、農商工連携による教育研究を進め、北海道経済・産業の発展と国際社会の繁栄並びに持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。産学官金の連携により「実学の知の拠点」を形成し、社会課題の解決に寄与することが使命です。

皆さんには学業の他に、クラブ活動やボランティア活動などにも積極的に参加してください。十勝の開拓の歴史を知り、地域の多様な人々の考えや文化に触れることも大切です。そうした学業以外のアクティブな時間を送ることによって、多様性を受け入れる人間性が育まれ、大学生活は豊かになります。学びあいのコミュニティは大学の内外に広がっています。フレッシュな気持ちで、新たな道を切り開いてください。

フレッシュマンの皆さんが、それぞれの目標に向かって、志を高く持ち、悔いのない学生生活を過ごし、生命・食料・環境分野の専門知識、社会に通用する教養、社会情勢の変化や諸課題に対応可能な応用力やコミュニケーション能力を身につけ、人間的に大きく成長されることを祈念します。



教授
佐々木 基 樹

共同獣医学
課程

共同獣医学課程の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本学の共同獣医学課程を志望した理由は様々かと思いますが、これからの6年間の獣医学教育によって、皆さんは多くの幅広い知識を習得し、これまで抱えてきた、または入学後に新たに抱いた夢の実現へと向かって進んでいくことになることでしょう。この入学を機に、皆さんは自由に「学ぶ」ことができる恵まれた環境にあることを再認識して下さい。この6年間の大学生活において、獣医学はもとより多くの分野の知識を積極的に吸収することで、豊富な知識と人格を兼ね備えた獣医師として皆さんが社会に貢献していくことを期待しています。

帯広畜産大学と北海道大学は、2012年度から共同獣医学課程（VetNorth Japan: VNJ）を開設し、今年度の入学生が15期生になります。この共同獣医学課程では、統一されたカリキュラムにおいて教育がなされ、それぞれの大学がもつ強みを生かし、弱い部分を補完し合うことで質の高い獣医学教育を可能にしています。帯広畜産大学は、広大な十勝という酪農や食肉生産といった畜産業が盛んな地域に位置していることから、産業動物臨床や食品衛生といった分野が充実しています。一方、北海道大学では、伴侶動物臨床や人獣共通感染症といった分野に強みがあり、皆さんはこれらの分野を含む多くの獣医学関連科目を両大学の教員から学ぶことになります。

また本共同獣医学課程は、2019年の12月に欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の獣医学教育の欧州基準認証を取得し、国際水準の獣医学教育を実践していることが認められております。今後、この獣医学教育の水準を維持・発展させていくことは本学の責務であり、VNJの獣医学教育改善には皆さんの

協力が必要不可欠となります。教職員とともに皆でVNJを発展させていきましょう。

共同獣医学課程では、2019年度から新カリキュラムがスタートしており、1年生の講義は教養科目を中心に行われ、専門科目としては帯広基礎獣医学演習や農畜産演習が実施されています。帯広基礎獣医学演習では、帯広で北大生と一緒に獣医学の概要に関して学び、また本演習は両大の学生が交流を深める切っ掛けにもなっています。また、農畜産演習では獣畜融合の観点から、と畜実習や搾乳実習などが行われ、「いのち」と「食」を考えるうえで貴重な体験となることでしょう。2年生からは獣医専門科目が本格的に始まり、基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学の講義・実習が体系的に実施されます。4年生になると臨床獣医学に関する科目が加わり、参加型臨床実習（ポリクリ）に参加するための基礎的な知識と臨床技術の習得がなされます。5、6年生では実際に獣医療現場に参加するポリクリが実施されますが、このポリクリを受講するにあたっては4年生の終わりに実施される共用試験に合格する必要があります。また、5、6年生では課題研究が行われ、研究のノウハウを学びます。さらに研究を続けたい学生さんには、本学大学院に獣医学専攻博士課程が設置されていますので、進学も選択肢の1つになるでしょう。

これから、獣医師になるためのハードな日々がはじまりますが、本来、自身がやりたいことであればそれをも楽しむこともできるでしょう。また、課外活動などにも積極的に参加してバランスのとれた健全な大学生活を送って下さい。この6年間の帯広での生活が、夢実現への第一歩になることを願っております。



教授
耕 野 拓 一

畜産科学
課程

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。ようこそ帯広畜産大学へ。ご家族の皆様におかれましても心よりお祝いを申し上げます。

日本の食料基地である北海道のなかでも、代表的な農業地帯である十勝平野に本学はあります。この恵まれた環境の中で、本学は日本で唯一の国立農学系の単科大学として、「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じた、地域および国際社会に貢献することをミッションに掲げています。

世界的な食料情勢の変化による食料安全保障上のリスクの高まりや、気候変動等への対応など、今日、「食と農」に関わる問題は社会的にも大きく注目されています。グローバル化が進む現在、この「食と農」に関わる問題は複雑に絡み合い、広い視野を持った問題解決能力や交渉力が今まで以上に求められています。

こうした社会的要請に応えられるよう、本学の畜産科学課程には、生命・食料・環境の多様な分野を網羅する、家畜生産科学、食品科学、環境生態学、農業経済学、植物生産科学、農業環境工学の6つのユニット（専門分野）があります。

1年次では、各ユニットが開講する「農畜産科学概論Ⅰ～Ⅵ」と、これに連動した「全学農畜産科学実習」を受講し、本学で農畜産学の専門分野を学ぶ上で必要となる基礎を習得します。また、こうした専門分野だけでなく、文学・哲学・法学・英語・ドイツ語などの人文社会学系科目も履修し、専門課程に進む準備を行います。1年次の後半には、希望調査を行い各ユニットへの所属が決まります。

2年次では、より専門性の高い科目を学び、3年次になると、各ユニットの研究室に所属し、さらに専門性の高い展開教育や実習、そして卒業研究の準備（専

門書や論文の輪読、各研究室での実験への参加など）や、就職活動なども始まります。そして4年次になると、卒業研究の総仕上げとなり、1月末頃には各ユニット単位で卒業研究報告会が行われます。

本学では、こうした各専門分野単位で行われる講義等の他に、北海道国立大学機構の3大学（本学、小樽商科大学、北見工業大学）が連携し開講する文理融合型の副専攻型プログラムが2年前から始まりました。これは3大学の科目を複合的に組み合わせた「アントレプレナーシッププログラム」「スマート農畜産業プログラム」「スポーツ・健康プログラム」の3プログラムです。興味に応じて選択下さい。

コロナ禍のため、講義や実習までも遠隔で行われ、学生間や学生教員間との交流も限られていた時期もありました。現在は、その制約もなくなり、日本国内・地域はもとより、海外にも自由に行くことができます。本学には国際教育プログラムによる海外実習、ウイスコンシン大学（米国）と共同で行われるサマージョイントプログラム、国際協力機構（JICA）と連携し本学学生を海外協力隊員として、南米パラグアイに派遣する「帯広-JICA 協力隊連携事業」など、単科大学としては多くの海外プログラムがあります。これらの副専攻型プログラムや海外プログラムは、現在の複雑に絡み合う「食と農」をめぐる問題への対応力、広い視野からの問題解決能力を持ち、国際社会に貢献しうる交渉力を備える上でも重要となります。

勉学の話ばかりをしましたが、クラブ活動やボランティア活動などにも自ら積極的に参加し、様々な人と交流し対話をすることで、さらに人間的な魅力も増します。実り多い豊かな充実した学生生活をお送りください。



准教授
秋 本 正 博



別科・酪農専修に進学した皆さん、ご入学おめでとうございます。別科・酪農専修は、将来農業やその関連企業・団体に従事するために必要な科学的知識や技術を学ぶ教育コースです。酪農専攻と銘を打ちますが、そのカリキュラムは他の一次産業域とも深く結びついており、家畜を健康に育てるために必要な家畜管理学や繁殖学、良質な飼料を自給するために必要な草地学や農業機械学、安定した牧場経営を行うために必要な農業経済学や衛生学といった多岐にわたる分野を網羅的に習得することができます。

大学での学びは、知識を受け取るだけの受動的な営みではありません。専門教育を通じて理論を深めると同時に、実習や実践教育によって現場の課題に触れ、自ら考え、行動する力を養う場です。そこで求められるのは当然のことながら自発性です。これからの教育は、皆さんが高校までに受けてきたものとは大きく変わります。義務教育や高校の教育では、定められたカリキュラムの範囲で全ての学生が同じ量の教えを受けられたと思います。大学は紛れもない高等教育の場であり、何事かを成し遂げたいと望む学生の能力を伸ばすための教育を行います。ある意味不平等ではありますが、自ら望んで学ぶ者は限りなく多くの能力を享受できますが、反面で自ら学ぶ意欲のない者はただ徒に在学期間を過ごすだけで終わってしまいます。皆さんは、それぞれ何らかの夢や目指すところがあって大学への進学を志したのだと思います。それを叶えるためにも大学生になったという意識をしっかり持ち、自らを鼓舞してください。日本の酪農業は、気象変動や国際情勢の変化、就労人口の減少などにより、常に新たな課題に直面しています。だからこそ、皆さんが学問の追究によっ

て得る知識と視点は、国全体や地域社会にとって大きな価値を持ちます。大学での学びと現場の知恵が結びつくことで、未来の農業や地域の発展に寄与する新たな可能性が生まれてくるはずです。

十勝地方は日本における酪農や畑作の中心地で、他の地域にない広大な大地に根ざした大規模な農業が営まれています。その歩みには確固たる開拓精神が息づいています。皆さんが今大学生活を送っているこの環境は単なる学びの場ではなく、日本の食を支える農業従事者たちの努力と歴史の上に成り立っていることをぜひ心に留めてほしいと思います。学問の追究は容易ではありませんが、その過程で培われる思考力や探究心は、社会人となった後も揺るぎない支えとなります。社会に出れば、答えのない問題に向き合う場面が数多くあります。そのとき、大学で身につけた「問い続ける姿勢」こそが、皆さんを前へと導く力になります。十勝の地で学ぶという特別な環境を存分に活かし、先人たちの開拓精神を胸に、自らの未来を切り拓く存在となってください。

在来生所感



共同獣医学課程 2年
浦澤慧太郎

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。受験勉強も終わり、これから待ちに待った大学生活が始まります。初めての一人暮らしや、慣れない環境に移ることで不安なことや心配事も多いと思いますが、勇気を持って踏み出せば、きっと素晴らしい仲間や先輩、先生と会えると思います。そして、畜大は単科大学ということもあり、比較的少人数で飾らない親しみやすさがあるのが魅力的だと思います。

自分が大学生活でぜひ大切にしてほしいと思うことを言います。

まず自分の興味のあることに挑戦してみることで。畜大生は同じ様なことに興味のある人がとても多

いし、それに応えられるだけのサークルや部活がたくさんあります。同じ場所を共に目指せる仲間を作ったり、知見の深い先輩方と巡り会えることは何よりも貴重なことだと思います。また学生の内に、学内だけでなく社会のいろいろなところで興味のあることをやってみてください。学生だと、大人の方々も意外と応えてくれたりします。畜大でしかできないことがたくさんあると思うのでぜひ挑戦してみてください。

次に友達とたくさん遊びに行ってみる事です。一人暮らしの大学生のいいところとして、自分で運転したりして好きなことを好きなときにできることがあげられると思います。夏も冬もいろんなところで様々な自然や景色を楽しみ、アクティビティをすることができると思います。気が乗らないことでもやってみると意外と面白いことも結構あります。ぜひ重い腰を上げて色々なことをやってみてください。

でもやはり一番は自分に合わせて無理をしすぎずに体調に気をつけることです。これからの大学生活をぜひ全力で楽しんでください。



畜産科学課程 2年
二口 桜耶

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。受験生活は心身ともに大変だったことと思いますが、その経験はこれからの人生のさまざまな場面で必ず自分を支えてくれる力になります。思うようにいかず不安になった日々や、最後までやり抜いた達成感、困難に直面したときの大きな支えになるはず。まずはここまで努力を重ねてきた自分自身をしっかりとし、認め、誇りに思ってください。これから始まる大学生活の中で、きっとこの学校に来てよかったと心から思える瞬間が訪れます。そこで私が実際にそう感じたことを二つ紹介します。一つ目は、本学では二年次からユニットに分かれますが、一年

次に六つのユニットすべてを広く学ぶことができる点です。家畜・生態・工学・食品・経済・植物といった多様な分野に触れることで、もともと興味のなかった分野にも関心が生まれ、自分の視野や将来の選択肢が大きく広がりました。幅広い学びは物事を多角的に捉える力を養い、自分の可能性に気づかせてくれました。二つ目は、本学特有の実習です。特に心に残っているのは豚の屠畜実習で、班ごとに一頭の豚を世話し、最終的にその命をいただく経験をしました。日々世話をしてきた存在と向き合い、命をいただくという現実を体感したことで、食べ物が決して当たり前ではなく、多くの人の支えや命のつながりの上に成り立っていることを強く実感しました。この学校には、知識だけでなく人として大切な価値観を育ててくれる環境があります。最後に、ぜひ目的意識を持って学びに向き合い、仲間と支え合いながら挑戦を重ね、今しかない四年間をかけがえのない時間にしてください。

在来生所感



畜産科学課程 2年
木曽あおい

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。期待と不安が入り混じる中、十勝というこの広大な土地に足を踏み入れたことと思います。1年前、私も想像のつかないこれからの生活が怖く、大好きな地元を離れるのがとても寂しかったことを覚えています。地平線を埋め尽くすビル群と、夜も眠らない街を見て育った私にとって一番の驚きは、あまりにも広い青空と満天の星でした。

皆さんを待ち受ける大学生活は、きっと期待を超える刺激的なものになるでしょう。初めての一人暮らし、生まれ育った場所が違う人との出会い、自分で時間割を組み、大きな講義室で授業を受ける日々。

サークルの新歓では、先輩が運転する車でいろいろな場所に連れて行ってもらったり、おいしいご飯を奢ってもらったりすることもあります。今までとは全く違う学生生活が、目まぐるしいスピードで過ぎていきます。皆さんが抱えている不安なんて、思い出すころにはもう冬になっているはずです。

皆さんが本学にやってきた理由はさまざまだと思いますが、中にはまだやりたいことが分からないという方もいるでしょう。でも安心してください。これから多くの講義や実習を経験する中で、きっと自分の興味のある分野に出会えます。ぜひ好奇心を持っていろいろなことに取り組んでほしいです。

1年間を通して私が感じた、大学生活を豊かにする秘訣は「とにかく多くの人とかかわること」です。同級生だけでなく、先輩や先生、アルバイト先の農家さんなど、さまざまな人と関わり、自分の世界を広げていってください。

最後になりますが、皆さんの大学生活が素敵なものになることを心から願っています。畜大へようこそ！



別科 2年
川副 誠志

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。春の訪れとともに、皆さんが新たな一步を踏み出されることを、心からお祝い申し上げます。

これから始まる大学生活に、期待と同時に不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。私も入学当初は、初めての一人暮らしや人間関係、学業についていけるのかなど、さまざまな不安を抱えていました。しかし、実際に生活が始まってみると、その不安は少しずつ期待へと変わり、今では毎日がとても充実しています。

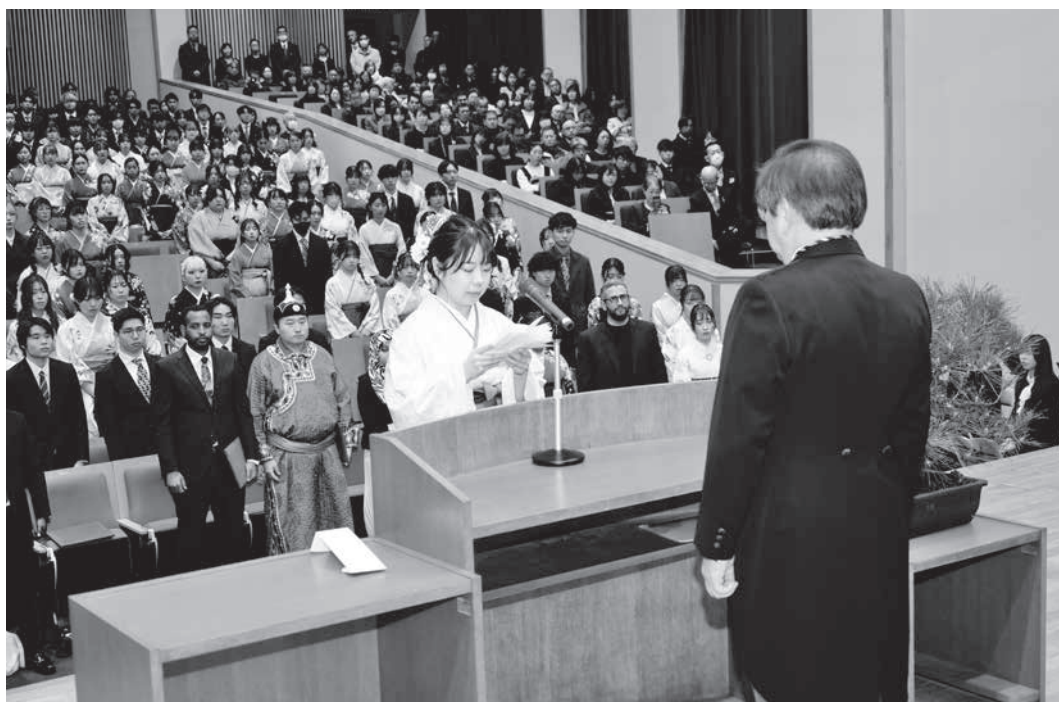
畜産大学では、座学だけでなく実習が多く、動物と直接向き合いながら学ぶ機会が豊富にあり

ます。実習を通して、知識だけでなく責任感や判断力も身につけ、自分自身の成長を実感できる場面がたくさんあります。また、先生方との距離が近く、分からないことや不安なことも気軽に相談できる環境が整っているのも大きな魅力です。

勉強だけでなく、サークル活動や友人との時間、北海道ならではの自然や食を楽しむことも、大学生活を豊かにしてくれます。失敗や悩むこともあると思いますが、それら全てが将来につながる大切な経験になります。ぜひ多くのことに挑戦し、自分らしい大学生活を築いてください。

皆さんのこれからの学生生活が、実り多いものになることを心から願っています。新しい世界で、たくさんの出会いと経験を通して、大きく成長されることを期待しています。

令和7年度 学位記並びに修了証書授与式 開催



令和8年3月19日（木）本学講堂において、令和7年度学位記並びに修了証書授与が挙行されました。

長澤秀行学長から、共同獣医学課程・畜産科学課程、別科、博士前期課程の代表者と、博士後期課程及び博士課程の修了者に学位記・修了証書がそれぞれ授与されました。また、卒業生を代表して、共同獣医学課程の小堀玲奈さんによる答辞が行われました。

各ユニットと別科における学業成績優秀者の表彰もあわせて行われ、表彰状の授与と記念品の贈呈が行われました。

最後に、マンドリンサークルにより伝統の逍遥歌が演奏され、式典が締めくくられました。

本年度は、畜産学部248名、別科12名、大学院72名の合計332名が、本学での思い出を胸に巣立っていきました。



☆ 飲酒に関する注意 ☆

【飲酒に関する重要なルールと適切な対応について】

日本の法律では、20歳未満の者による飲酒は禁止されています。大学生であっても20歳になるまでは絶対に飲酒してはいけません。飲み会などの場では、20歳未満の学生が誤って飲酒しないよう、ネックストラップやステッカーを着用させるなど、周囲も十分に注意を払ってください。

万が一、飲酒を勧められたり強要された場合は、はっきりと断ることが必要です。また、そのような事実があれば、速やかに学生支援課や学生相談室に連絡してください。

【飲酒を強要しないためのルールと危険な飲み方の禁止】

イッキ飲みは急性アルコール中毒を引き起こす可能性があり、最悪の場合は死に至る危険な行為です。コールをかけて飲ませる行為はもちろん禁止ですが、強要ではなく自らイッキ飲みを行っている場合でも、周囲が危険な飲み方をしている状況を見かけたら、必ず止めるようにしてください。「みんながやっているから」「盛り上がっているから」では済まされません。仲間を守る行動が求められます。

【まとめ】

20歳を過ぎて飲酒が可能になった後も、適量を守り、危険な飲み方を避け、節度ある飲酒を心がけることが大切です。飲酒の問題が発覚した場合は、厳しい処分を行います。学生一人ひとりが責任ある行動を心がけ、安全で健全な学生生活を送りましょう。

☆ 交通事故防止について ☆

本学では、通学時の自動車等の利用について、一定の条件を満たした場合に許可しています。ただし、通学の際はできる限り徒歩や自転車等、より安全な手段を利用することをおすすめしています。

構内の駐車場を利用する場合は、本学が実施する「交通安全講習会」を受講し、Webにて申請を行い、「駐車場許可証」の交付を受ける必要があります。学内及びその周辺において無断駐車が確認された場合は、厳しく対応しますので、十分注意してください。

一方で、帯広での普段の生活には自動車が欠かせないことも事実です。多くの学生が在学中に運転免許を取得し、自動車を所有しています。サークル活動の遠征や友人との旅行などでも、自動車で移動することが多くあります。

自動車の利用は便利な一方で、交通事故のリスクも伴います。重大な事故を起こしてしまうと、皆さんの大切な学生生活が一瞬で損なわれてしまう可能性があります。

飲酒運転や危険運転等、法律で禁止されている行為をした場合や、過失であっても人身事故を起こした場合には、民事・刑事・行政上の責任を負うことになります。さらに、大学としても退学や停学といった処分を行う場合があります。

自動車の利用におけるリスクを十分に理解し、常に安全運転を心がけてください。

また、気を付けていても、事故に遭ってしまう可能性はあります。自動車を購入する際は、自賠責保険だけでなく、必ず任意保険にも加入するようにしてください。

☆ SNSの利用にあたって ☆

【SNS利用における注意点とトラブル防止について】

大学生になると行動範囲が広がるとともに、SNSに関連したトラブルも増えています。SNSは不特定多数の人が閲覧できる公開の場です。投稿内容によっては、誤解を与えたり、他者の権利を侵害したりする可能性があります。また、限定公開（鍵アカウント）でも、画面のコピーや引用によって拡散される可能性があるため、慎重な利用が求められます。

●SNS利用時に特に注意すべきポイント

プライバシー保護：他人の情報や写真を無断で掲載することはプライバシー侵害にあたります。「許可を取ったつもり」「仲の良い友達だから大丈夫」と思っても、トラブルにつながる場合があります。

誹謗中傷の禁止：SNSは匿名性が高いように見えますが、発信者は、開示請求により特定されることがあります。「大勢の前で言えないことはSNSでも発信しない」が基本です。

内部情報の漏洩防止：アルバイト先やサークル、インターン先等で得た情報は、外部に出してはいけない場合があります。特に「写真に背景として写ってしまう情報」「業務内容を匂わせる投稿」など無意識の漏洩にも注意が必要です。

セキュリティ対策：SNS上には偽アカウント、スパム、フィッシング詐欺など多くの危険が存在します。見知らぬアカウントとのやり取りや、不審なリンクのクリックは絶対に避けましょう。

位置情報の流出防止：写真や動画を投稿する際、意図せず位置情報が付与されていることがあります。自宅や学校など、生活圏が特定される投稿は特に注意してください。

SNSの情報をすべて鵜呑みにせず、社会のルールやモラルを守り、責任ある利用を心がけてください。万が一トラブルに巻き込まれた際は、ひとりで抱え込まず、学生支援課などに早めに相談しましょう。

☆ 消費者トラブルに巻き込まれないために ☆

成年年齢が18歳に引き下げられたことにより、大学生は親の同意を得なくても契約ができるようになりました。自由度は増えましたが、契約に伴う責任を自分自身で負う必要があります。一方で、知識や経験が十分でない若年層を狙った悪質な取引や不当な契約も数多く存在し、軽い気持ちで判断するとトラブルにつながる可能性があります。

特に、「簡単に儲かる」「他より異常に安い」といった広告や、「判断を急がせる」「お金がないなら借金を」と勧める業者には注意が必要です。インターネットやSNSを通じた副業サイト、暗号資産投資、美容サービスなどに関するトラブルが多発しています。こうした誘惑を安易に信じず、必要のない契約はきっぱり断る姿勢が大切です。

契約を結ぶ際には

- ・その場で決めず一晩置いて冷静に考える
- ・家族や信頼できる友人に相談する

といった対応が有効です。

また、クーリング・オフ制度や消費者契約法について知っておくことも重要です。一定の条件を満たす契約であれば、定められた期間内で無条件に解約ができる場合がありますし、「嘘をつかれた」「帰してくれなかった」など不当な状況下で結んだ契約は取り消せる場合があります。

もしトラブルに巻き込まれてしまった場合は、一人で抱え込まず、学生支援課や学生相談室に相談してください。また、外部の消費生活センターでも、「消費者ホットライン」188番（いやや！）で相談を受け付けています。契約前の慎重な判断と、万が一の際の早めの相談が、トラブルを防ぐ鍵になります。

学生支援課 学生生活支援係：0155-49-5310 sien@obihiro.ac.jp
学生相談室：0155-49-5638 soudan@obihiro.ac.jp